

経営比較分析表（令和元年度決算）

宮城県 五ヶ瀬町

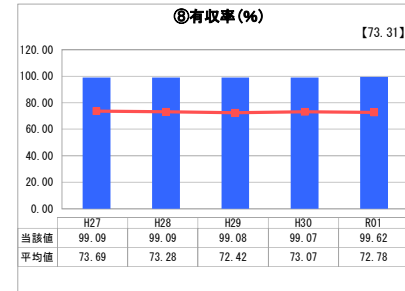
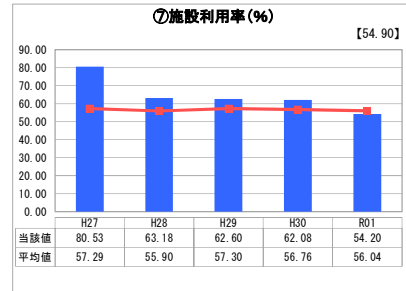
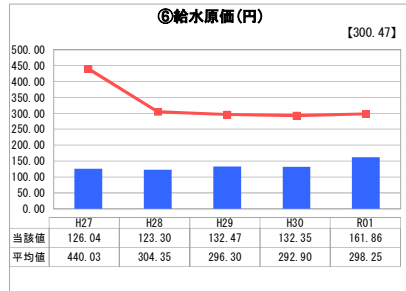
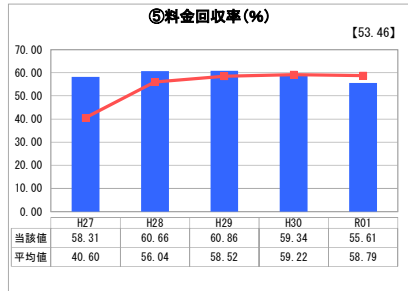
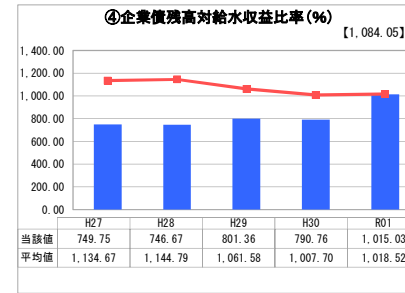
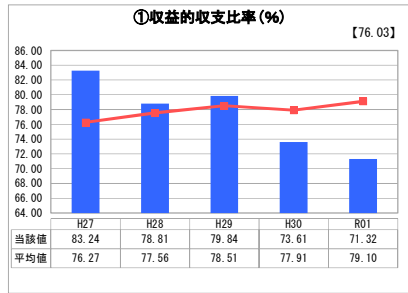
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	70.54	2,200	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,812	171.73	22.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,598	9.84	264.02

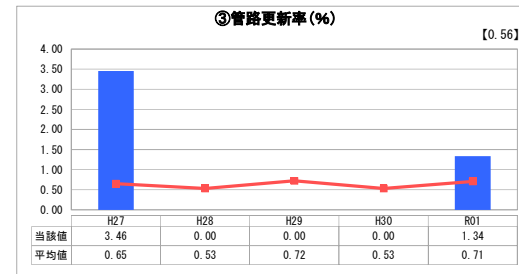
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町簡易水道事業は一般会計・地方債の補填によって賄われている現状にある。
 収益の収支比率。料金回収率共については昨年度より下がっており、依然として水準は低い。要因として、給水人口の減少による料金収入の減少、施設更新等による総費用の増加、地方債償還金の増加が考えられる。
 企業債務高対給水収益比率については、平均値は下回っているが、施設更新等により、今後も地方債現在高が増加していくことが予想される。料金回収率については、昨年度より下がっている。要因として、給水人口の減少及び、施設更新等による総費用の増加が考えられる。
 施設利用率については、昨年度より下がっており、要因としては、給水人口の減少が考えられる。有収率については平均を上回っているが、急峻な地形の当該地域特性を考慮すると、広域連携や施設の統廃合等はハードルが高く、経営改善への第一歩として料金水準の見直しを望ましいと考える。

2. 老朽化の状況について

管路は比較的新しく、最も古いもので敷設後20年程度である。
 今後も定期的に管路更新を実施していくこととなるが、長期的には管路の更新時期を迎える地区が重複してくるから、漏水の状況等をふまえて、優先順位を決めるなど計画的な更新を行っていく。

全体総括

水道普及率7割程度の本町においては、今後も繰入金や起債に依存する経営状況が続くことが予想される。しかしながら、人口増加が見込めない中では、特別会計さらには一般会計の財政圧迫が必至となる。
 財政負担の軽減を図るには水道料金水準を見直し、計画的な引上げ等を検討する必要がある。また、経営戦略については令和3年度内に業者に委託し策定を行う予定である。